

に し む か い

(庭瀬416=吉備公民館駐車場内)

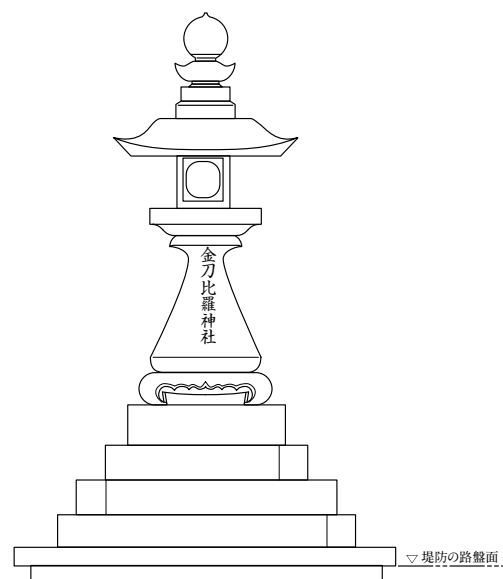



第二編 題目石等の石碑



- 276 -

東面(昭和42年以前は北面)



	<div>發起人 難波常造 世話人 難波伊三郎 難波徳三郎 難波吟造</div>									
	<div>燈籠講加入連 壳口持 難波常造 難波徳三郎 難波新吉 難波伊三郎 難波吟造 次田武吉 島村平太郎 難波藤作 難波定五郎 曾我彦太郎 町内北西</div>									
	<div>燈籠講加入連名 半口持 小郷吉造 高島増右衛門 難波菊次郎 難波文作 難波三治郎 次田直造 坪井吾八 平川源吉 難波萬治郎 平川多吉 曾我宗吉 難波利平 荒木甚五郎 木元愛介 熊代直道 兒島忠吉 岡藤十郎 難波平吉 荒木千代造 難波栄一郎</div>									
<div>四半口持 岡鉄治郎 曾我宗五郎 兒島源三郎 難波栄治郎 大江平治</div>										

この常夜灯は、明治19年の大水害のあと、大橋の西岸に創建され、地藏堂、日車様と並んで、西向町内の人達が自力で守り続けた町のシンボルであった。

水害の多い地域で、常夜灯は幾度となく崩壊の憂き目にあったが、その度に地域の人々が立ち上がり、再建をしてきた。

- ・明治19(1886)年:足守川大水害のあとに創建
- ・大正5(1916)年:水害で崩壊したのち再建
- ・昭和42(1967)年:足守川拡幅工事のため(撫川1495-2)に移築
- ・平成25年(2013):防災の見地から、「西向常夜灯を守る会」と庭瀬
かいわい案内人の会の協力で吉備公民館駐車場内に移築

「氏神両神」とは中撫川の須佐之男神社、八幡神社の2社である。その昔、日蓮宗の信徒であった領主戸川氏の信城寺(中撫川の八幡神社の別当)と、観音院(須佐之男神社の別当)の対立融和策に心を痛めていた。常夜灯には転機となるそれぞれの年代が刻まれている。

この近郷では吉備津彦神社の燈籠に次ぐ規模で、地域の遺産である。創建当時の石工の銘はないが、蓮弁の出来は秀逸で、何度か落下事故にあい修理されている。笠石はモルタルで接着し、擬宝珠は蓮弁に鉄筋で繋ぎ、まさに満身創痍である。

川の東岸にあった慶應4年(1868)築造の常夜灯は、大正5年(1916)の大橋架け換え工事で不要になった欄干の親柱一対とともに、大橋中之町公民館に保存されている。

明治19年の創建当時、常夜灯の基台の内部は、石材の加工時に発生する割石の破片で満たされていたが、昭和42年の移転工事ではコンクリートで固められた。これは荷重が有効に垂直に伝達され、最適な素材であるとの事。移設のたびに内部は現代様式変化した。近年は加工方法が機械化され、適当な端材が少ないこと、技能工不足等によりコンクリートで固めるようになった。石燈籠を刻む技術も衰退してしまう。

西面（昭和42年以前は北面）



南面（昭和42年以前は東面）



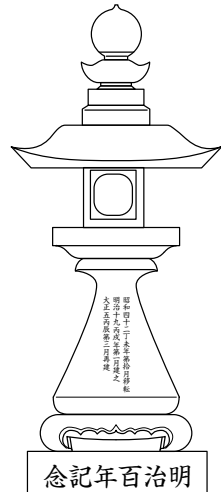
西面

明治百十年記念

寄附連名
燈籠敷地
四坪五合
永代寄贈
難波久男
金貳萬円
次田猛
金五千円
岡謹一郎
全
加藤健一
全
川中嘉市
全
木下芳雄
全
幸原昇平
全
幸原富士夫

金五千円
幸原文武
全
次田克己
全
坪井禮次郎
難波泰文
難波二郎
西川米三郎
西川勝
全
林亨平
全
林隆博
全
藤原万寿男

昭和四十二年未年拾月移転
明治十九丙戌年第一月建之
大正五丙辰第三月再建



南面

石燈籠再建記

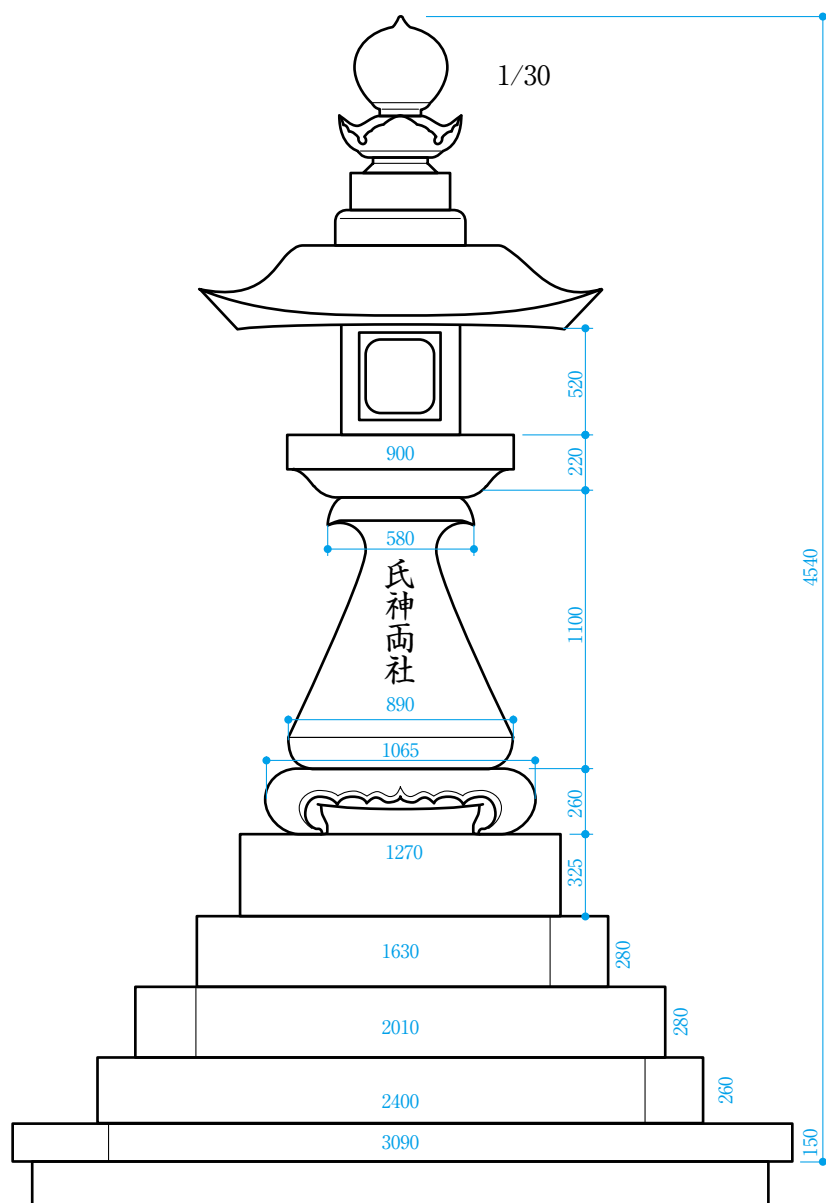
發起人
難波吟藏
難波菊次郎
難波嘉平
世話人
難波常吉
次田直藏
島村善次
佐藤常三郎
難波寛治
坪井源次郎
高島總吉
木元安吉
岡藤十郎
中野小十郎
小野源三郎
児島源三郎
児島円藏

寄附連名
一、金五円
難波吟藏
同五円
難波菊次郎
同五円
柴田品松
以上
大正五年三月
石工
井上次郎吉
柴田品松

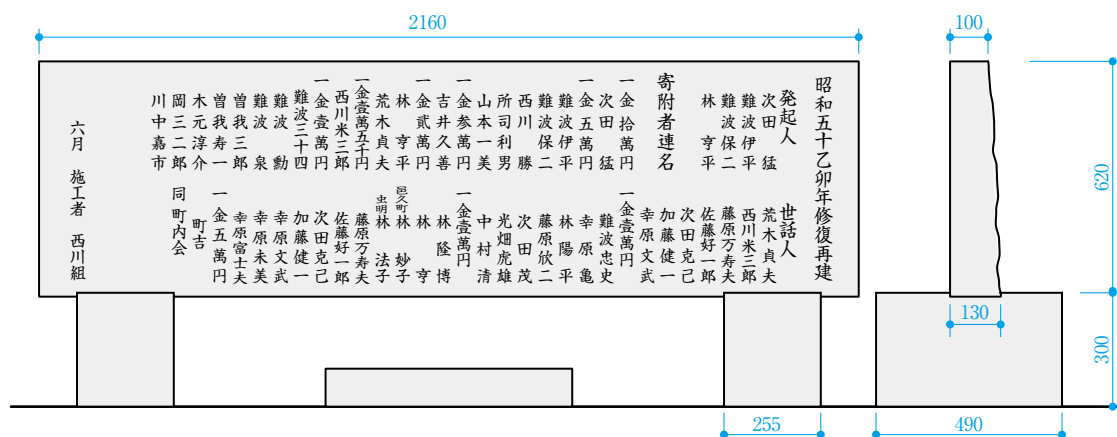
吉備津神社

石燈籠再建記

北面(昭和42年以前は南面)



■ 昭和50年の修復再建の銘板



西向常夜灯今昔物語

度重なる危機を経て100年以上、地元西向町内の方々の尽力により守られてきました。

西向の常夜灯は、明治19年に足守川の旧撫川大橋の西岸に築造され、当時は船舶往来の燈台として重要な役割を果たしていた。花崗岩で作られた独自の様式は、歴史的にも文化的にも貴重な郷土の文化財である。

守川拡幅工事による移築、昭和50年の修復再建、そして平成25年に私有地から吉備公民館敷地内への移転と、存亡の危機に会うたびに地元西向町内の有志が立ち上がり、みんなのチカラで今までその勇姿をとどめてきた。

その後、大正5年の河川氾濫に伴う倒壊と再建、昭和42年の足

- | | |
|-----------------|--------------------------------------|
| 明治19年(1886)1月: | 足守川の大水害の後に大橋の西詰に建設 |
| 大正5年(1916)3月: | 大水害で大橋とともに倒壊したものを再建 |
| 昭和42年(1967)10月: | 河川拡幅工事で撤去になるところ、町内有志により私有地に移設 |
| 昭和50年(1975)6月: | 町内有志により修復再建 |
| 平成25年(2013)1月: | 私有地への存続が不可となったため、町内外の有志により吉備公民館敷地に移転 |



大正5年3月13日「山陽新報」に撫川大橋の落成式の様子との文中に、『道橋の西詰なる燈籠修築祝いを兼ねて』との記述がある。それが本常夜灯のことと推察される。

昭和30年代当時の様子(東側から臨む・難波伊平氏提供)



昭和42年10月移転の様子
(西向の難波久男氏が私有地を提供・南側から臨む)



昭和42年10月～平成25年1月
(昭和50年に修復)



平成25年1月移転時の説明板と寄贈者銘板

